

Ⅰ 子供たちの体験機会の実施状況

<管理部>

事業名	概要・目的
船っ子教室 (放課後子供教室)	<p>文科省「学校を核とした地域力強化プラン」に係る「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」のメニューとして実施。 全児童の87.5%(令和5年8月末現在)が登録する、全小学校内の空き教室等を活用した放課後の子どもの居場所。 放課後等に体験活動を提供するため、各教室において地域住民等の協力を得ながらイベントを開催。</p> <p>【内容】 (スポーツ) 野球、サッカー 等 (文化・娯楽) マジック、人形劇、カードゲーム 等 (工作) ミサンガ、スライムづくり 等 (学習) 科学教室、そろばん、習字 等</p> <p>※1校あたり月平均 延べ10日実施(令和5年5・6月実績、内容により複数日実施の活動あり)</p>



☆科学実験教室

<協力者>
東邦大学
ボランティアサークル

<参加児童>
薬円台南小 30名

<プログラム>

- 身近な材料を使った実験を通して、科学への興味関心を高める。
- ・片栗粉と水でダイラタンシー現象の観測
- ・調味料を使って10円玉をピカピカに

<活動の様子>

講義だけでなく、体験型の実験で児童も飽きずに参加していた。児童からは楽しかったとの声が多く聞こえ、再度の開催を求める声もあった。



☆TRPG 体験

<協力者>
千葉工業大学
TRPG 研究会

<参加児童>
塚田小 27名

<プログラム>

- TRPG やカードゲームを通して、楽しみながらコミュニケーション力・創造力・戦略的思考を鍛える。
- ・色々なゲームのルールを覚えてプレイしよう

<活動の様子>

普段は元気のある活発な子もおとなしく大学生の話の聞き、集中している様子だった。ゲームだけでなく大学生と遊ぶこと自体も楽しんでいた。



☆サッカー教室

<協力者>
行田東 FC

<参加児童>
行田東小 12名

<プログラム>

- 体の動かし方やチームワークを学び、スポーツへの興味関心を高める。
- ・ルールを守って試合をしてみよう

<活動の様子>

コーチが審判をするので、フェアプレーで楽しんでいた。チーム競技はクラブや部活以外で経験する機会が少ないため、家庭の事情でサッカーを習えない児童は喜んでいました。

2 今後の取組について～子供たちの体験・経験の機会を増やすために～

(方向性) 主に船っ子教室を活用した体験機会を充実・拡大

<船っ子教室を活用する理由>

- ▶ 無料で、子供たちにとって身近で安全安心な場所
- ▶ 全児童の約9割(28,416人)が登録
- ▶ 既存の学校施設(教室・グラウンド・体育館・理科室・視聴覚室)の利用が可能
- ▶ 地域住民等の参画による多様な体験機会の提供(地域社会が子供の成長を支える)
- ▶ 放課後ルーム利用者も参加可能

(今後の取組) 船っ子教室コーディネーターの体験プログラム企画・調整の支援

- ① 生涯学習部事業と放課後子供教室の連携の検討
例 ハッピーサタデー事業等の体験活動を船っ子教室でも実施
- ② 民間提案制度(課題設定型)の活用
- ③ 包括連携協定先(大学・企業)との連携事業の検討
- ④ 学生ボランティア(大学・市立高校)による体験活動の検討
- ⑤ 体験活動の提供可能団体リストの整備
例 市内団体リスト整備の検討、文部科学省「土曜学習応援団」検索ツールの活用 など
- ⑥ 体験機会の周知の強化
例 入退室時のお知らせメールに活動プログラム予定表へのリンクを設定